

病防第115号
平成27年12月2日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成27年度病害虫発生予察注意報第7号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

平成27年度病害虫発生予察注意報第7号

農作物名 イチゴ
病害虫名 ハダニ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 収穫期（12月以降）
- 3 発生程度 多

4 注意報発表の根拠

- (1) 巡回調査における11月の本ぼの寄生葉率は、10.0%（平成6.5%）で平年比やや多の発生であった（図1）。
- (2) 病害虫防除員からの報告によると、11月の発生は平年比やや多であった。
- (3) 11月第2半旬以降の気温は、平年より高く推移したことから、ハダニ類の発生に適したほ場が多かったと考えられる（図2）。
- (4) 福岡管区气象台が11月26日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高い予想であり、ハダニ類の発生に適した条件が続くと考えられる。

5 防除対策

- (1) 多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除の徹底に努める。
- (2) ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているため、老化葉は積極的に除去し、薬剤防除の際は、薬液が葉裏に十分かかるように、丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤などの物理的資材を積極的に活用する。ただし、葉や果実に薬害を生じやすい剤もあるため、ラベルなどで使用上の注意事項を確認した上で使用する。なお、気門封鎖剤は、ハダニ類に直接付着しないと効果がないため、特に丁寧に散布する。また、卵への効果や残効性が無いため、7日程度の間隔で複数回散布する。
- (4) 殺ダニ剤については、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、栽培期間を通し計画的に使用する。
- (5) カブリダニ類を放飼したほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を使用しハダニ類の密度を抑える。ただし、ハダニ類が増えすぎた場合は、殺ダニ剤を中心とした薬剤防除に切り替える。
- (6) 薬剤の中にはミツバチの活動に影響を及ぼすものもあるので、影響の少ない薬剤を使用する。
- (7) 農薬は、ラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守して農薬の安全使用に努める。

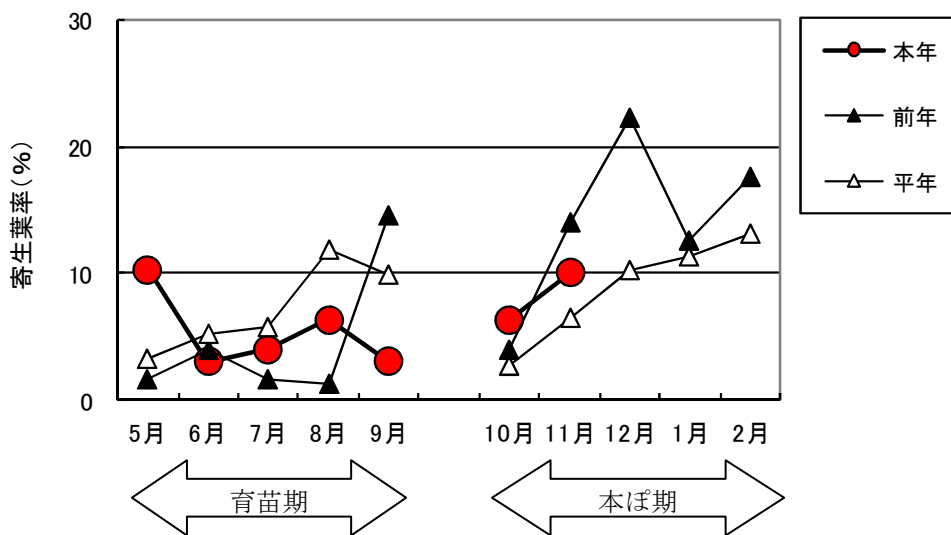


図1 巡回調査におけるハダニ類の寄生葉率の推移

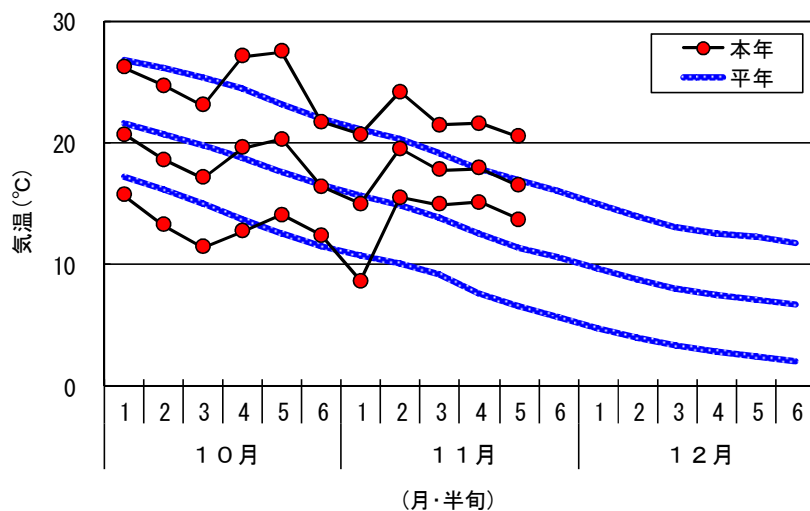


図2 熊本市の気温の推移(最高・平均・最低)



写真1 ナミハダニ

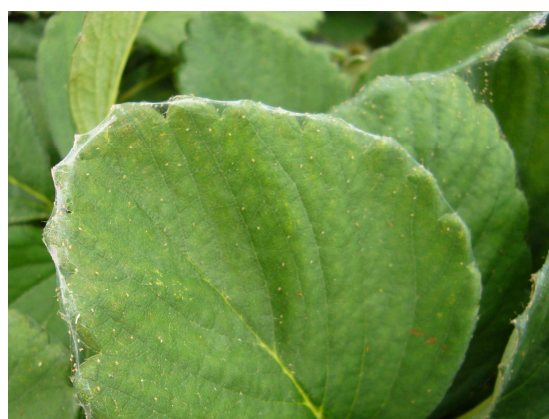


写真2 ナミハダニの吐く糸に覆われた葉

熊本県病虫害防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病虫害研究室 予察指導係)
 担当：児玉、荒木 TEL 096-248-6490